

皆さんのおかげです！

2008年11月8・9日 西日本大会（長崎県雲仙市）



長崎県協会
仲尾勝利

「夢はあきらめなければ必ず叶う」このほど引退を表明したマラソンの高橋尚子選手の言葉です。

11月8日、雲仙ゴルフ場での西日本大会1日目、オリエンティアの皆さんを目の辺りにして夢が実現した思いに感慨深いものがありました。

■ゴルフ場への思い■

3年前の10月、地元の大村市政施行65周年記念事業一環として、全日本トレイル・オリエンテーリング大会を企画したとき、トレイルをどこにしようという思いをめぐらす中で、これまでトレイル九州大会を3回開催してきた野岳湖公園に隣接するゴルフ場を思い浮かべました。

大村市に、ゴルフ場での開催意義、その効果を説明し、市にゴルフ場への交渉を依頼しました。残念ながら、行政の力をしても、ゴルフ場の回答は「No」でした。

ゴルフ場への思いをリセットすることはできません。長崎県内のゴルフ場での開催をいろいろと模索し、雲仙ゴルフ場なら、万が一の可能性があるのでは、そして雲仙ならそのネームバリューからも、全国から人を呼べるのではないかと思い、町おこしに一生懸命に取り組まれている雲仙市長にお願いしようという結論に至りました。

平成19年1月、雲仙市長に面談する機会を得、ゴルフ場開催への思いを正直にぶつけました。雲仙市長の決断は早く、その席で協力を約束していただき、ゴルフ場関係者の英断もあり、一気に話は進みました。とは言え、民間会社です、当然のことながら、1日貸切りの費用が発生します。



■九州協議会の結成■

ゴルフ場開催へのめどが立ちました。長崎県協会として、トレイルのノウハウはありますが、フットの運営能力

はゼロに等しい現状。しかし、フットの大会を開催しなければ人は集まらないことは必定、そこで、福岡県協会会長神谷さん、佐賀県協会会長の溝江さん、北九州 OLC 会長吉田さん、博多 OLC の小比賀さんらを歴訪して、ゴルフ場開催の可能性と長崎県協会の現状を吐露し、九州ブロックとしての取組みの意義を説明し、幸い皆様のご理解により実現することになりました。



■西日本大会開催への難関■

トレインとスタッフのめどが立ち、大会規模をどうするかということになりました。行政等からの助成を受けるには、ビッグなネームが欲しい。当初は20年度から開催されることになった「全日本スプリント選手権大会」の誘致を目指しました。残念ながら失敗し、西日本大会へ方向転換をしました。このことは資金確保にも大きなマイナスになりました。地方での大会、ましてや日本最西端長崎での大会となれば多くの参加者は望めない、スポンサーの確保も容易でない等のハンディを克服するには行政の助成が不可欠です。

そのために、全日本というビッグネームが欲しかったのは正直な心情でした。ゴルフ場開催へ突っ走ってきた私が逡巡した時期でもありました。

アクセスの問題からオリエンテーリングを開始するのは、土曜日の午後からになる、空いている午前中にグラウンド・ゴルフ大会の開催を思いつき、関係者と協議を重ねました。

まことに虫のいい話でしたが、ゴルフ場での開催はグラウンド・ゴルフ側にとっても、長年の念願だったとかで、話はとんとん拍子に進み、同時開催が合意されました。

■準備の遅れ■

本年1月から3月までの間、資金調達への足踏みが後々まで響きました。準備の出遅れをカバーしていただいたのが、スプリントの競技担当の北九州 OL クラブ、ミドル競技担当の博多 OL クラブそしてスタート・ゴール業務の佐賀県 OL 協会の方たちでした。コントローラをお願いした山口県協会の福田

さんにも大きな負担を負わせることになりました。福岡県、佐賀県の皆様には、期間が短い中を懸命に努力していただきました。本当に頭が下がる思いでした。

無論、長崎県協会もトレイルOの準備に万全を期しました。加えて、日本トレイルO研究会の田中会長、J O A トレイルO委員会の櫻内さんにも応援をいただきました。

■楽しい夢をありがとう■

こうして迎えた雲仙での西日本大会澄みきった青空の下というような好天気にはなりませんでしたが、どうにか大会開催には支障のない程度の天気に恵まれました。参加者も、当初県外から50名を目標で100名を越せば万歳という見込みでしたが、県外の参加者170名を超えました。これもスタッフの皆さんのご努力の賜物でした。

多くの人たちに支えられた西日本大会はどうか終わりました。参加者の皆さんにどれだけの感動をお持ち帰りいただいたか、自信はありませんが、何年に一度かの紅葉の美しさに免じてお許しをいただきたいと思えます。

3年前のクルージングによるトレイルO大会、昨年の全日本トレイルO大会、そして今回の西日本大会と夢を追いつづけた3年間でした。夢はみるもの、楽しむものということも実感しました。私の夢のパートナーとして、いつも協力を惜しまなかった長崎県協会の志田さん、アドバイスと協力をいただいた日本トレイルO研究会の田中会長、櫻内さん等々、私はすばらしい仲間にも恵まれました。夢をみつづけることができたのもこうした仲間のおかげです。そろそろ種切れです。1年夢をみずに熟睡することにします。

しっかり充電して、また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

(仲尾勝利)

